

◆ 書 評 ◆

池田清『神戸 近代都市の過去・現在・未来』

社会評論社，2019年9月

金井萬造（立命館大学）

1. 本書の構成と内容

日本の近代都市の典型である神戸市を対象にして、その都市形成過程としての明治維新から過去・現代・未来に時代区分をして分析し都市づくりの問題と課題を解明している。第1部は過去として、明治維新から第2次世界大戦まで、第2部は現代として、第2次世界大戦敗戦以後から2018年頃まで、第3部は未来として、非核「神戸方式」と人口減少と幸福都市の展望とそのイメージについて述べられている。

内容は、第1部（過去）では、明治維新以降の殖産興業と西洋の近代世界システムのモデルとしての「軍事港湾都市」神戸について取り上げ、「植民都市」と「皇国都市」の特徴を指摘している。ここで、植民都市とは居留地という植民地の活動が主導する都市を示し、皇国都市とは明治政府が都市づくりを支援して都市建設を推進したことを示している。

第2部（現代）では、過去の植民地開発手法を生かした都市経営政策を推進した神戸市政と都市経営を検証している。「大神戸の経営」と植民地型都市開発としての中国満州と朝鮮釜山港の港湾開発手法を神戸市で実践した。宮崎辰雄の神戸市政を検証して、当時の時代潮流であった「都市社会主義」の実践的取り組みから逸れた市政の実情と社会教育法のもとづく公民館方式の後退という負の部分を指摘している。大神戸を目指す開発優先の政策・事業の問題点を指摘している。コミュニティ政策や労務管理面での問題点や市民生活の分野での貧困者や災害の被災者対応でも開発優先のツケとして弱点になり、その政策が

阪神・淡路大震災後の対応でも、生活困窮者対応で弱さを露呈した。

第3部（未来）では、非核「神戸方式」についての政策の後退をもたらし、安全保障の面で後退を示していることを指摘している。望ましい都市の方向として、「平和・文化・環境都市」神戸を目指し持続可能な幸福都市を提案し、都市イメージとして市民や有識者の取り組みの成果や神戸の固有性や多様性を生かした都市づくりを提案している。

2. 内容で優れていると思う点

関係文献を精査して、説得力のあるストーリー展開がされていること、特に、神戸の150年のある時期のみについての政策や開発や市政の評価を150年の時代展開に則り、客観的評価を試みていることは、著者の自由人としての立場を生かした分析・検討がなされていることは素晴らしいといえる。非常に多くの関連文献を精査しての独自の視点と論評は分かり易くて読む人に共感を与えると共に研究や実践や地域調査に役立つ教科書としてまた、読み物としての高い評価を与える。特に、第2部の現在は第1部に係わってきた人物が神戸市の市長や要職に着き、その政策や開発手法を適用したことによって、その時代の潮流である市民参加や市民主導の取り組みにマイナスに影響している背景を解明していることは評価できる。第3部の未来は、非核問題・都市の将来展望・都市イメージ等、評価・検証だけでなく、神戸市の将来を指し示す指摘になっていることから読者の過去と現在問題・課題を受けての筆者の回答・提案であることから、安心感と物語としてのストーリー

性が感じられる。

3. さらなる検討の深化を期待する点

過去の軍事港湾都市と現在の経済都市の推進で影響を受けている市民や中小企業や市民組織の実情と未来における地元主体・主導の人材や厳しい環境の中で芽生えている取組みについても研究と分析をされることを期待したい。現在の大震災後の復興過程でのNPOの状況と課題と展望を見出すこと、高齢者や女性の新たに活躍する取組みの分析を期待したい。神戸の特性であるハイカラ・国際化対応の芸術分野の取組みから、新しい文化資本となり、海・里・山の自然や環境を生かした取組みの分析を期待したい。江戸時代以前の瀬戸内海と海上交通・輸送と海陸の街道という特質がその時代の社会状況から現在・未来に引き継がれる文化資本からの分析を期待する。第3部の未来の分野では、過去・現在の延長としての連続性から見た基礎的な地域の自治力・推進力・人材力の養成の取組みの可能性と課題についての検討を期待する。第3部の「平和・文化・環境都市」神戸をコミュニティレベルから発展させる手立てについても研究を期待したい。

4. 研究の視点での課題

近代都市神戸を取り上げているが、明治維新までの長い歴史の過程で形成されてきた地域環境・景観という歴史の背景のもとでの神戸市地域の保有する個性と特質や地域文化が明治維新以降の時代にどのように影響を受け、変容していったか、また、現在時点で未来に向けての地域形成に生かされる状況にあるのか、または新しい時代に対応していけるのか、等の分析は未来の時代の生成に重要な役割を發揮していくものと思われる。大規模開発と基幹産業から取り残された地域の固有の地場産業や市民レベルでの教育・文化活動や生活文化を生かし、21世紀の課題である

高齢化・健康・食文化・ファッション・デザイン・居住・社会基盤と側面とグローバル化・異文化交流の分野を生かした展望と地域の主体形成の状況と課題と対応方法についての検討を期待したい。その意味で、第3部の未来の前提条件・基礎的条件の整理と地域が保有してきたポテンシャルについての分析の必要性があると思う。既存の整備空間を除けた新しい地域空間に対する開発が地域空間全体を主導したという研究・分析は素晴らしいものがあるが、既存と新規の空間活動の絡み合いの検討を期待する。さらに、神戸の地勢・地盤・自然・環境の特性や生活文化の中で形成されてきた地域の文化資本のストックの面からの検討から、異なった方向性が見えてくることも予想される。明治維新の近代以前の分析に期待したい。瀬戸内地方の海上交通・陸上交通面での広域の交流・物流・文化交流面での地域に残してきた文化資本の視点も含めた神戸の未来に向けた展望づくりに貢献していくものと考ええる。

5. さらなる研究の発展への期待

過去・現代から未来へのつなぎ・継承させる地域の個性と取組みのストックの生かし方の研究と共に、未来の形成過程での地域・市民の目線からの具体的取組みやシステムの構築について、市民目線での分かり易い方法で、指し示す取組みや実践面での取組みの研究が必要と思われる。神戸市地域の地勢的・地質的特徴である前面の広域・世界につながる海上交通空間とのつながりと地域への影響、地域の背後を形成する六甲山系や近隣地域と風化しやすい花こう岩質の地形に似た類似の都市の比較研究や生活・文化面でのソフトな取組みから歴史的に継承されてきた文化資本の面からの将来展望に与える影響や教訓の活用と地域間交流と相互比較による新しい地域・都市創造のあり方の研究での先導役を期待したい。また、明治維新以降150年を超えての時代展開における地域内産業連関の研究面での地域内と地域外との連携させた研究態勢へ

の発展も期待したい。人・産業・地域の有機的つながりや未来に向けての支援と連携の取組みのあり方の研究・人材育成・技術開発等についても期待したい。神戸市地域のコミュニティレベルからの活性化と地域間連携によるネットワーク型の地域再生事業モデルの構築を期待したい。

6. 問題点と対応

第1部（過去）の部分では、神戸市の既存の歴史的産業・生活・活動のストックの状況や歴史的競争過程での影響と対応の分析はあまり触れられていない。既存の都市整備空間での事態の進行や苦境・生活貧困者等の状況をもう少し紹介されると第2部（現在）の部分へのつながりと地域づくりの主体形成での位置づけがもう少し明らかになり、「経済都市」神戸における役割も見えてくると思う。特に、紙数の関係での制約もあるが、第2部から第3部への出発点に於ける基礎条件の整理として、問題と課題がより鮮明にさせることができると思う。人口減少時代と持続可能な幸福都市への取組み方と実践につなげていけると思う。特に、第8章の阪神・淡路大震災からの復興における地域再生・創造の主体の状況と地域・コミュニティにおける担い手育成での「学びあい育ち合い助け合い」の取組みと地域の自律と自治力と地域連携力対応の見える化の社会システムが明らかにされていくことが必要と思われる。

7. 感想と得られた教訓

全体で270頁の出版物で、深くて、つながりが理解できて、ストーリー性が分かる構成になっている。関係文献を丁寧に読み込み、整理されているので、個々の論評を読むことと比較して豊かな内容になっているとの第一印象である。1960年代から、神戸港と全国の港湾の建設・整備に係わってきて、流通機能・貿易振興・産業振興や港湾の背後都市の都市整備・観光振興や技術者の国際研修・災害後の地域・都市の再生への取組みに関係している者の視点からは、本書から新たな知見や時代展開と地域の行政の施策について、多くの学ぶべきものがあった。都市経営は、財政面・産業面と共に、都市開発事業の支援と地域再生・創造に向けた地域主体づくり（人材育成）・地域生活者の視点からの分析の必要性を実感した。多くの研究者の知見に対しても、関連文献と時代を取り巻く背景の検討に基づく評価・批判は著者の研究における信念からの発言・発信であり、新たな風を吹き込んだと捉えているし評価したい。本書から得られた教訓としては、筆者の研究態度での文献と関係機関の政策・事業・実践の現場からの実態の把握に基づく確信に基づく発言は学ぶべきものが多いと感じた。明治維新以降150年を超える時代の変化を統一的に把握して、その全体像からの分析しようとする取組みは、変化の激しい現代では大きな意義を持つと考える。参考文献も多数に及ぶが、自分で振り返り、深く理解し納得を得るのに役立つ。著者のさらなる研究の発展を期待したい。